

# これまでの総合教育会議の成果報告

## 総合的な不登校対策推進事業 (平成30年度協議テーマ)

(千円)

	事業費	特定財源			一般財源
		国・県支出金	市債	その他	
令和元年度予算額	10,410			960	9,450
前年度予算額	0				

### 事業目的

学校の息苦しさの低減、学校が苦手な子との絆の醸成と学習機会の確保を図り、どの子も置き去りにしない仕組みを構築する。

### 実施状況

#### 1 不登校対応振り返り研修システムの確立

本年度内に校務用のパソコンで、全教職員が研修を受けられるように、システム構築をしている。

#### 2 相談室（別室指導）教育の充実

優れた取組を行う市内の学校を調査し、他の学校でも適用できるよう、モデル化を行っている。

#### 3 適応指導教室でのICT教材の活用（子ども未来局）

夏季休業中にすべての教室にタブレット型PCを配備し、子どもたちは、eライブラリを活用して、興味関心や習熟度に合わせて個別学習を行っている。

#### 4 訪問教育相談員の配置

訪問教育相談員を3つの中学校（観山中、長田西中、清水二中）に1名ずつ配置

○不登校児童生徒の家庭を訪問して子どもや保護者と面談を行うことで、孤立感を解消し、変化の兆しを見逃さないよう支援している。

○9月末現在、合計189回の家庭訪問を実施し、うち147回について、面会ができています。

○計画どおりの効果が出ており、来年度は3名増員し、6名を配置予定



【研修プログラム作成委員会】  
質問項目や事後研修について協議



【相談室】  
個別学習が可能な相談室運営



【適応指導教室】  
タブレット型PCの活用の様子

### 事業効果

○訪問教育相談員が関わることによって、引きこもりにより長い間会えなかった生徒と面会することができた。また、別室登校につながった生徒や修学旅行に参加できた生徒、定期的に適応指導教室へ通級できるようになった生徒がいる。

○タブレット型PCの配備により、適応指導教室の学習支援機能が高まり、学習ソフトを活用した生徒は「楽しい。」「難しい問題にも気楽に挑戦できる。」と、学習意欲の向上が見られた。